

## 会議結果報告書

令和6年 1月 5日

会議の名称	令和5年度 第1回文化財保存活用地域計画懇話会	
種別	<input type="checkbox"/> 附属機関 <input checked="" type="checkbox"/> 懇話会等	
開催日時	令和5年11月15日(水) 14時30分～16時00分	
開催場所	舞鶴市役所 別館612会議室	
出席者	<委員> 菱田会長他10名 <事務局> 福田市民文化環境部長他6名	
議題	3. 協議事項 (1) 令和4年度実施状況について (2) 令和5年度の取組み内容について	
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開	
	<input type="checkbox"/> 部分公開	[理由]
傍聴者数	1名	
審議結果 及び 主な意見等	別添会議録のとおり	
会議録の作成様式	<input type="checkbox"/> 詳細 <input checked="" type="checkbox"/> 要約	
備考		

担当課	舞鶴市 市民文化環境部 文化振興課 TEL ( 0773 ) 66 - 1019
-----	---

## 第1回舞鶴市文化財保存活用地域計画懇話会 議事録

日時：令和5年11月15日（水）14:30～

場所：舞鶴市役所 612 会議室

出席者：菱田 哲郎委員（京都府立大学文学部教授）

日向 進委員（京都工芸繊維大学名誉教授）【オンライン】

加藤 晃委員（舞鶴市文化財保護審議会会長）

松尾 象空委員（松尾寺住職）

伊庭 節子委員（舞鶴観光ガイドボランティアけやきの会会長）

澁谷 恵一委員（舞鶴市自治連・区長連協議会理事）

今安 茂也委員（舞鶴商工会議所 副会頭）

舞鶴市観光振興課 三輪 紀子観光まちづくり室室長（竹原良治課長代理）

舞鶴市教育委員会学校教育課 日下部 亘課長

京都府文化財保護課 古川 匠課長補佐（石崎善久委員代理）【オンライン】

（欠席者）

上杉 和央委員（京都府立大学文学部准教授）

八木 透委員（佛教大学歴史学部教授）

吉岡 久委員（海の京都 DMO 舞鶴地域本部事務局長）

舞鶴市都市計画課長 上羽 讓司課長

舞鶴市企画政策課 松岡 幸治課長

（事務局）

市民文化環境部 福田 伸一部長

文化スポーツ室 三方 理江室長

文化振興課 松本 達也歴史文化まちづくり担当課長

文化振興課 歴史文化まちづくり係 松崎 健太主査

森 香那子主査

矢内 悠葵主事

## 1. 開会

部長あいさつ

## 2. 会長・副会長の選出について

菱田委員を会長に選出

日向委員を副会長に指名

## 3. 協議事項

(1) 令和4年度実施状況について

(2) 令和5年度の取組み内容について

### ■委員からの主な意見

- コロナの影響によって祭りの存続が危うくなっている地域もあるとのことだが、計画の中には途切れかけているものを支援する役割もあると思うので、積極的に支援を行っていただきたい。
- 59「伝統文化の担い手の育成」・62「伝統文化等の復活」は具体的にはどのような事業を行う予定か。一度途絶えたものを復活させることは微妙な問題を含んでおり、行政から手を入れて実現するというものでもない。伝統行事の復活は、行政側の計画として表記すると無理矢理復活させるような印象になってしまうので、地域との連携の中で可能であれば進めてもらうことになると思う。
- 地域の子どもが地域のことを知らないという状況が気になっているところ。自分が住んでいる地域の特徴を学ぶ機会をもらえるのは地域の学校。カリキュラム等の問題もあるが、配分をもっと考えて、地元のことを教えたら子ども達も楽しくなるのではないか。
- 文化財をトータルで考えていくうえで、縦割りに依存していると思うように進まない。事業ごとに大きな柱があるので、フレキシブルに文化財を活用するメニューに対して、財源の問題も含め工夫してもらわないといけない。
- 43「舞鶴市市民遺産制度の創設」について、学区・地区ごとに文化遺産をみるのは大事な取り組みであり、ぜひその流れを着実なものにしてほしい。そういった取り組みが達成度として目に見えるようになれば重要な資料となる。
- 市役所でやっていることがなかなか外に伝わっていない。関心を持っている人も多いとのことなので、行動を起こしていくことが必要。その点において、市民遺産制度は良いことなので、早く始めるべき。細かいことはやりながら進めるぐらいでも良い。
- 文化財を活用するうえで、お金を観光に繋げるという点で一番興味があるのは蛇島だが、歴史文化ストーリーにも含まれるような重要な文化財なので、文化財部局と他部局が連携しつつ進めてもらいたい。

- この頃文化財の指定件数が非常に減っている。指定だけが文化財の評価ではないが、どんどん指定文化財を増やしていても良いのではないか。
- 方針 1-1 の 11「食育の推進」について、事業一覧表を見ると、食材をメインに親しんでもらうという方向に見受けられる。文化財のジャンルの中で当初食文化はグレーゾーンだった。最近は文化財として食文化を扱うこととなり、後発的に計画を作っている自治体はどれも食文化を挙げている。舞鶴市でもぜひ今後は食文化を積極的に評価して欲しい。